

議 事 録

1. 会議の名称 池田市史編纂委員会
2. 開催日時 平成24年8月9日(木)
午前10時～午前11時30分
3. 開催場所 池田市役所 6階 第2会議室
4. 出席者 《委員》
※委員長：◎ 森栗 茂一(◎)、小田 康德(○)、
副委員長：○ 富田 好久
〈事務局職員〉
松森教育部次長
田上生涯学習推進課長
田中主幹、細谷主査
関根非常勤嘱託、本井非常勤嘱託
4. 議 題 (1)平成23年度事業報告について
(2)池田市史編纂計画(案)について
(3)平成24年度調査計画(案)・予算について
(4)「史料編」(近代)・(現代)について
(5)その他
5. 議事経過 別紙のとおり
6. 開・非公開の別 公開
※非公開の理由 理由：
7. 傍聴者数 0名

開 会

教育委員会挨拶 昨年度は、旧城山勤労者センターの教育センターへのリニューアルに伴う市史編纂事務室の移転先についてご心配をおかけしたが、今年 2 月に市役所 7 階に移ることができた。その間、委員皆様方のお力添えで『新修池田市史』別巻（年表・索引編）の編纂を進めて無事刊行し、平成 5 年度から進めてきた『新修池田市史』の編纂事業が完了した。委員の皆様方のご尽力に深く感謝申しあげる。引き続き、「史料編」の編纂、今後の市史編纂事業の展開についても、更なるご協力をお願い申し上げます。

（１）平成 23 年度事業報告について

事務局 会議は、編纂委員会を 2 回開催。専門部会の近代部会は、「第 3 巻 近代編」の執筆者を再度委嘱し、6 回開催した。資料収集・調査は継続して行い、旧才田村と旧中川原村の古文書調査整理を進めた。また、『新修池田市史』別巻（年表・索引編）を刊行、さらに「史料編（近代）」の編纂作業も進めた。

広報活動は、昨年 7 月、『新修池田市史』第 4 巻（現代編）刊行の記念講演会を開催。広報誌への記事掲載や、ホームページの PR も継続して行った。

ほか、旧城山勤労者センターの教育センターへの改修に伴い、市史編纂事務室が、昨年 12 月に職員会館に、2 月には市役所 7 階に移転した。資料については、市役所地下倉庫・旧細河幼稚園などの 6 か所で分散して保管した。

富田委員 古文書は一度返してしまうとなかなか自由に閲覧することができなくなる。最低でもデジタル化して市史編纂事務室に残されていれば良いと思う。

事務局 費用と時間の制約もあるが、なるべく多くを撮影して残していきたい。

小田副委員長 池田市の姿勢が問われている。『池田市史』の完結で、市史編纂室がどうなるのか、集めた資料をどのように保存していくのか。すでに多数の資料が分散し、将来も不透明でかなり危惧している。市民の協力を得て集めた貴重な池田市の歴史的財産を、市はどのような責任をもって保管していくのか。池田市は財政が厳しいようだが、金が無いから保管しないというのは無責任だ。行政として方針を示して欲しい。現在は公文書管理法により、公文書は国民の財産・権利、民主主義の根幹と位置づけられ、国や府県、市町村にも法的規制と責任がかかり始めており、しかるべき手を打つことを強く希望する。

森栗委員長 最終的に文書館をつくり、行政や民間の文書も合わせて文書館の中で管理する、もしくは歴史民俗資料館にとにかく預かっておいてもらうなどの方法もある。文書館がベストだが、文書は写真に出来るので、デジタル文書館という選択肢もあるだろう。いずれにせよ何もしないというのは良くない。

小田副委員長 歴史民俗資料館は、保管庫も人員も脆弱で劣悪な状況。市史の資料を単純に合体させるわけには行かない。池田は都市として突出して長い歴史があり、これを活かすのであれば、他都市並ということではダメではないか。

森栗委員長 委員会の一致した意見としては、「『池田市史』の完成を視野に入

れた時、長年にわたる市史の成果を保存し、今後の歴史と品格のある文化都市のまちづくりに活かす施策・設備・方法等を検討いただきたい」ということだ。池田は、人口や産業規模は大きくないが、長い歴史がある。市民が誇りを持って暮らせるようなまちづくりを進め、その中で、市史編纂の成果をどう活かすのかということを考えていただきたい。その政策を進める中で文書館や、史料のデジタル化・公開が必要なら検討し、可能なら予算を確保したら良いと思う。そこに市民をどのように巻き込んでいくかが重要だ。

(2) 池田市史編纂計画(案)について

事務局 『新修池田市史』が平成23年度で完了し、『池田市史』の「史料編(近代)」が平成25年度、「史料編(現代)」が平成26年度に刊行予定となっている。
小田副委員長 近代編は当初の500頁の方針から増え約580頁となっている。

(3) 平成24年度調査計画(案)・予算について

事務局 調査・広報計画は、例年とほぼ同じ内容。編集・刊行計画としては、「史料編」の編纂を進める。予算は、「史料編(現代)」の専門委員1名を増やし、調査補助員の減額の代わりに、筆耕翻訳料(史料翻刻)を計上した。

森栗委員長 今回「年表・索引編」が出たが、市民と、近代編・現代編の専門委員とが語り合う会があっても良いのではないか。

小田副委員長 座談会の記録をとって、池田市のホームページで、映像を市民に見てもらったり読んでもらったりできるようにしては。

森栗委員長 大切なのは、市民に興味を持ってもらうこと。若い人達の視点も入れ、学生などに参加を要請し、感想を書かせて掲載するという手もある。

小田副委員長 大阪市では、市長や教育長へ市史の完成報告式を行った。それを広報に掲載する。予算は不要で、その際に、市史編纂の意義、「史料編」をこれから編纂すること、収集した史料の保管方法の検討を市長に申し入れることもできる。市長が市民に対して、市の金を使ってこれだけのことをやってきたということを説明する上でも、必要なことだろう。

(4) 「史料編」(近代)・(現代)について

小田副委員長 5月に構成・掲載候補史料の原案を作成し、翻刻に着手した。次回9月の専門部会で、実際の作業を踏まえて方針を検討していきたい。

(5) その他

事務局 「広報いけだ」掲載記事は、少しでも歴史に興味を持ってもらえるようなテーマであれば良いので、引き続きご協力をお願いしたい。

閉 会